

第2回 信州みちビジョン検討委員会

目次

1. 策定の概要（スケジュール）
2. 前回の主な意見（8/3 第1回検討委員会）
3. ビジョンの構成について
4. 取り組みと整備効果等



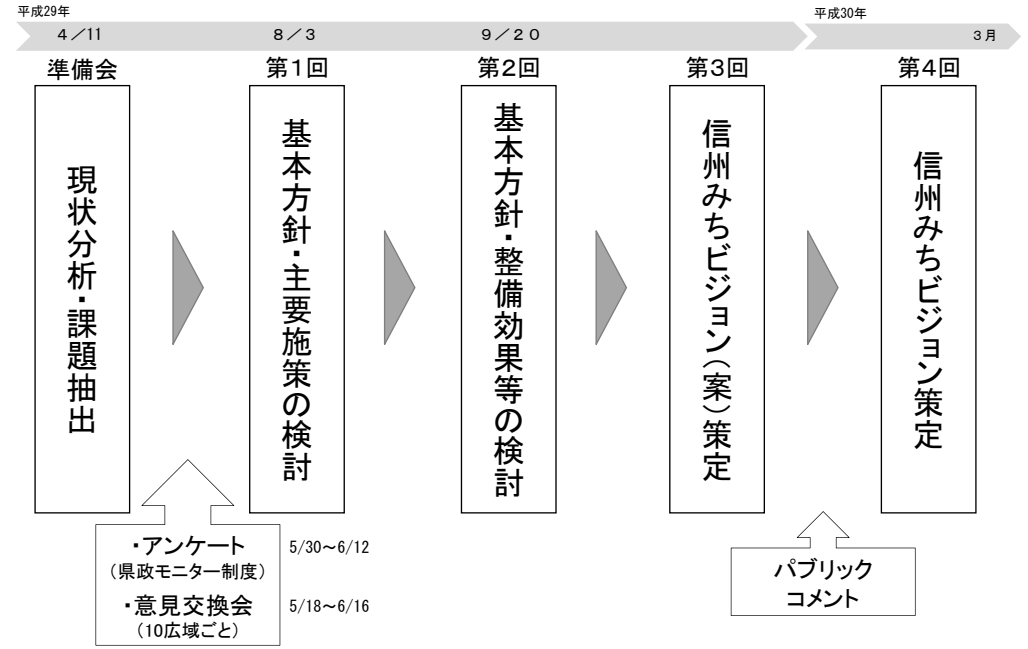
信州オープンクラスプロジェクト
2017.7.1-9.30

長野県建設部
平成29年9月20日(水)

1. 策定の概要

策定スケジュール（予定）

資料1



2. 前回の主な意見

ご意見概要と対応案

□基本方針等の修正について

資料2参照

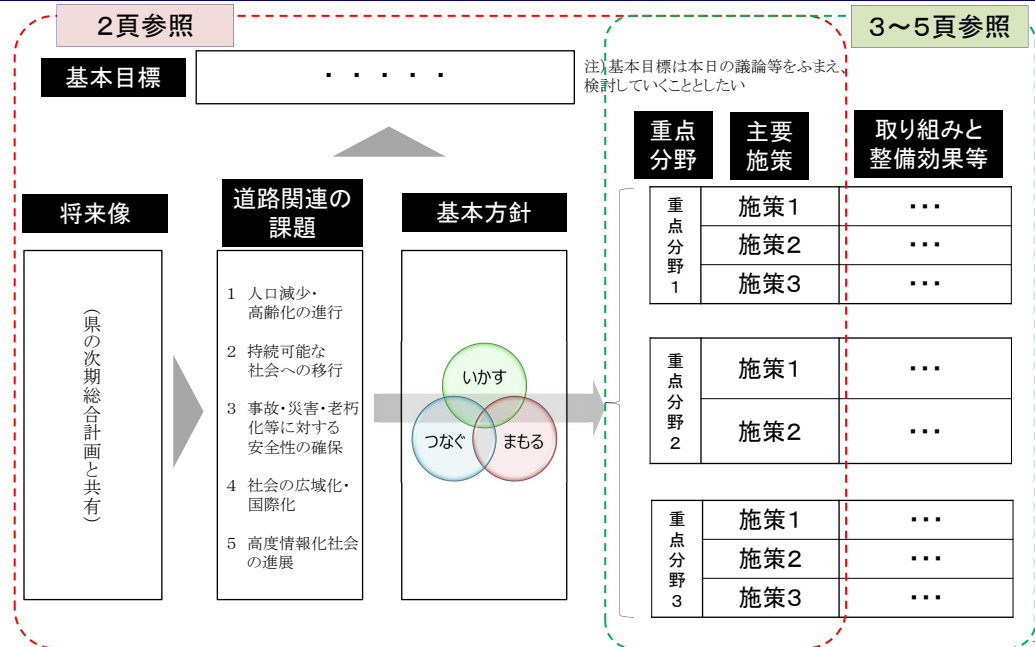
- ▶つなぐ・まもる等の横串に対し、縦串による手法の変化を考えた方がよい
→基本方針の内容を見直し、「課題」をふまえた従来との相違点等を検討
- ▶これからの大きな技術革新を考えていく必要がある
- ▶IoT、ICTが主要施策・基本方針に入っていない
→情報技術への対応を「課題」と捉え、基本方針等へ反映

□長野県らしさ・優先性について

- ▶長野県らしさが出てこない、優先順位を考えた方がよい
→アンケートや意見交換会等をふまえ、重点分野を抽出
(健康長寿、強靱化、観光・産業)
- ▶今後どんな暮らしが成り立つのか考えたとき、どうあるべきか
→将来像や重点分野等を設定することで、方向性を具体的に表現

3. 構成について

信州みちビジョンの構成(素案)



信州みちビジョンの構成（素案）

<策定の趣旨>

- ・時代の要請に応じた道路の整備や活用などの今後の方向性を示す
- ・期間は2018～2027年度の10年間
- ・対象は主に県管理道路

<現状認識>

- ・世界規模の動き: 技術革新の急速な進展、経済・社会・環境の持続可能性への気運の高まり など
- ・日本国内の動き: 急激な人口減少、人生100年時代へ、広域交通ネットワークの整備 など
- ・長野県の特徴: 豊かな自然環境、大都市圏へのアクセスの良さ、トップレベルの健康長寿 など

<将来像(暫定)>

今後、総合計画審議会において、現行計画を基本として構築予定。下記項目は現行計画の表現。説明文は本ビジョン向けに表現。

○世界に貢献する信州

世界との相互依存が深まる中、観光地の魅力向上等、地域資源を活かして世界に貢献している信州

○「豊かな」ライフスタイルを実現する信州

自然を損なわず、情報技術とも調和し、経済の持続的発展により、豊かで暮らしやすい信州

○誰にでも居場所と出番がある信州

誰もが、どこに住んでいても移動しやすい交通環境が整っており、自分らしく生きられる信州

○健康長寿世界一の信州

健康長寿先進県を将来にわたって継承・発展するため、子供から高齢者まで安心して暮らせる信州

○一人ひとりの力を引き出す教育県信州

全ての県民が主体的に学べる社会として、道路の学びの場も充実している信州

<道路関連の課題>

1 人口減少・高齢化の進行

- ・圏域人口の減少による活力低下
- ・車を運転できない高齢者等の増加
- ・高齢者の救急出動件数の増加など

2 持続可能な社会への移行

- ・拡散地域構造が低炭素化のネック
- ・渋滞による温室効果ガスの排出
- ・自然環境や景観への配慮重視など

3 事故・災害・老朽化等に対する安全性の確保

- ・高齢者の事故割合が年々増加
- ・災害時の幹線道路の通行止め発生
- ・橋梁等の老朽化が進展など

4 社会の広域化・国際化

- ・生活圏域拡大と地域拠点衰退
- ・移住や交流人口増加に向けてアクセス性に地域間格差が存在
- ・インバウンド対応が不十分な標識など

5 高度情報化社会の進展

- ・交通量データ等の細分化可能に
- ・県民等への情報提供環境の充実
- ・自動運転技術の急速な進展など

<基本目標>

(未定)

<基本方針>

【つなぐ】

県内外をスムーズかつ効果的につなぐ

- ▷情報技術等を活用した効果的な事業の取捨選択
- ▷自動車中心の道路網から多様性重視の道路網へ
- ▷平常時の総交通量に加え観光時期や救急車両等の特定交通も重視へ
- ▷道路の役割に応じたネットワークの構築

【まもる】

災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる

- ▷高度情報化に伴う安全レベルの向上
- ▷交通弱者や災害時要援護者(高齢者等)増加への配慮強化
- ▷想定以上の事象も考慮した被害を低減する方策の検討

【いかに】

道路の多面的な機能等を地域づくりへいかに

- ▷通行機能重視から、たまり機能などの多面性も重視
- ▷既存道路や情報技術(広報含む)の活用推進
- ▷自然環境や地域資源などを損なわずに活用を推進する
- ▷県民の声や県民の力等の道路行政への反映を推進

<重点分野>

I『健康長寿の暮らしを支えるみちづくり』

- ・子供からお年寄りまで、皆が健やかに暮らせる持続可能な地域を目指す

(1)人口減少社会における効果的な道路網の実現

- ▶コンパクト+ネットワークに資する道路を優先的に整備
- ▶情報技術等を活用し、ハード・ソフト対策を選択と集中により実施 など

(2)車重視の道路網整備から誰もが安心して移動できる道路環境整備へ

- ▶車以外(歩行者・自転車・バス等)でも移動しやすい道路網整備
- ▶誰もが安心して移動できる道路環境整備
- ▶老朽化等に対応するインフラメンテナンスの強化 など

(3)生活拠点の広域化・郊外化に対し歩いて暮らせるエリアも再構築へ

- ▶歩きたくなるまちなか道路環境整備推進
- ▶まちなかの賑いを支援する道路環境整備推進 など

II『県土の強靱化を担うみちづくり』

- ・多様な災害に備え、いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す

(1)最悪の事態を念頭に置いた災害時の人や物資の円滑な輸送確保

- ▶災害による影響を最小限に抑える道路網等の整備
- ▶道路網の脆弱性情報を事前提供する取組強化
- ▶広域災害に備えた関係機関(国・隣県・市町村等)との連携強化 など

(2)災害対応の迅速化を目指した道路機能や道路情報の強化

- ▶災害対応の拠点性を向上させる道の駅等の整備推進
- ▶災害時道路情報の迅速な提供強化 など

III『観光や産業の振興を進めるみちづくり』

- ・観光や産業の振興を通して、成熟した豊かな地域を目指す

(1)円滑性・多様性の強化による観光・産業拠点へのアクセス性向上

- ▶観光・産業拠点と高速交通網等の円滑性強化
- ▶自動車以外の観光客移動の利便性向上
- ▶誰もが分かり易い道路案内表示整備推進 など

(2)平常時の総交通量ではなく、観光・産業交通をふまえた安全性向上

- ▶観光・産業道路の安全性や信頼性の向上
- ▶観光地を安心して歩ける道路環境整備推進 など

(3)移動のためのみちづくりに加え、移動を楽しめるみちづくり

- ▶移動中の景観を楽しむための道路環境整備推進
- ▶自転車需要の増加に応じた道路環境整備推進
- ▶インフラツーリズム需要増加を活かした取組強化 など

(1) 人口減少社会における効果的な道路網の構築

- ▶コンパクト+ネットワークに資する道路を優先的に整備
 - ・市街地・環状・放射道路整備
 - ・役所や病院等の拠点間道路整備 →①医療施設等のカバー率
- ▶情報技術等を活用し、ハード・ソフト対策を選択と集中により実施
 - ・速度低下情報等のビッグデータを用いた渋滞対策
 - ②イライラ箇所対策率(渋滞損失時間やCO2排出量削減率等含む)
 - ・1.5車線の道路整備(山間部等)
 - ・TDM「交通需要マネジメント」等の充実
 - ・RESAS「地域経済分析システム」の活用

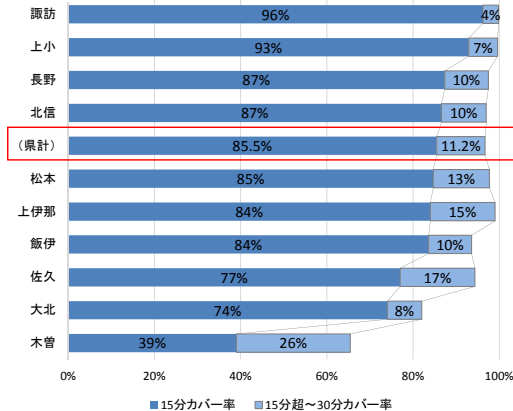
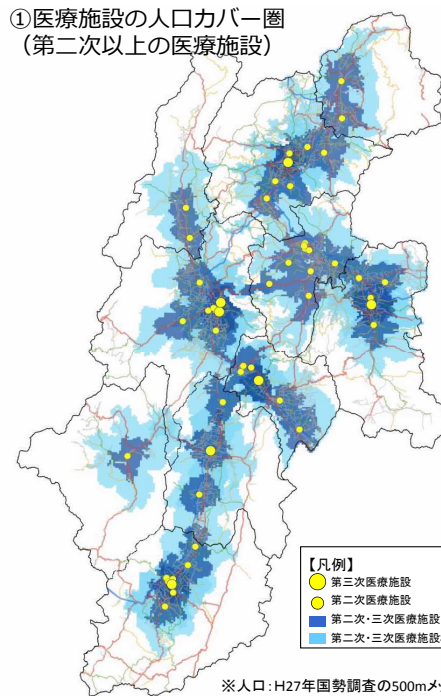
(2) 車重視の道路網整備から誰もが安心して移動できる道路環境整備へ

- ▶車以外(歩行者・自転車・バス等)でも移動しやすい道路網整備
 - ・歩道や自転車道等の整備
 - ・バス路線の道路環境整備(バス路線の改良、停車帯の整備等)
 - ・交通モード間の連携強化(主要駅のアクセス道路整備・結節機能強化等)
- ▶誰もが安心して移動できる道路環境整備
 - ・事故・ブレーキ情報等のビッグデータを活用した事故対策 →③ハラハラ箇所対策率(通学路対策やゾーン30への整備協力含む)
 - ・踏切道の改良促進
 - ・カーシェアや自動運転(参考:④)への対応
- ▶老朽化等に対応するインフラメンテナンスの強化
 - ・長寿命化計画や定期点検等の実施
 - ・ICT技術導入による道路管理の効率化等
 - ・ライフサイクルコストを考慮した工法選定や施設更新
 - ・照明のLED化

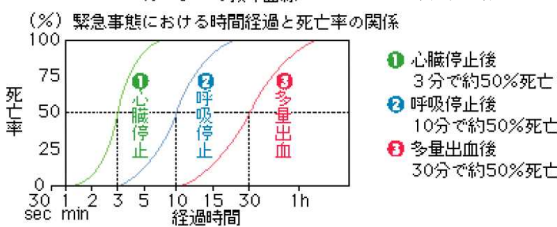
(3) 生活拠点の広域化・郊外化に対し歩いて暮らせるエリアも再構築へ

- ▶歩きたくなるまちなか道路環境整備推進
 - ・歩道等におけるユニバーサルデザイン化
 - ・無電柱化、沿道景観に配慮した道路整備等
- ▶まちなかの賑いを支援する道路環境整備推進
 - ・道路空間のオープン化(歩道たまり機能充実や沿道オープンスペース活用等)
 - ・まちなか緑化推進 など

①医療施設の人口カバー圏
(第二次以上の医療施設)



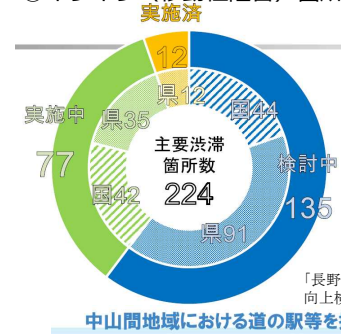
<カラーの救命曲線>



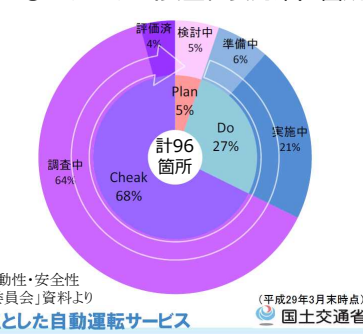
道路見える化事業の進捗状況

渋滞損失時間や死傷事故率の生活実感に近いデータや県民意見等に基づき、「イライラ(移動性障害)箇所」と「ハラハラ(安全性要対策)箇所」を選定し、「道路見える化事業」を実施している。

②イライラ(移動性障害)箇所



③ハラハラ(安全性要対策)箇所

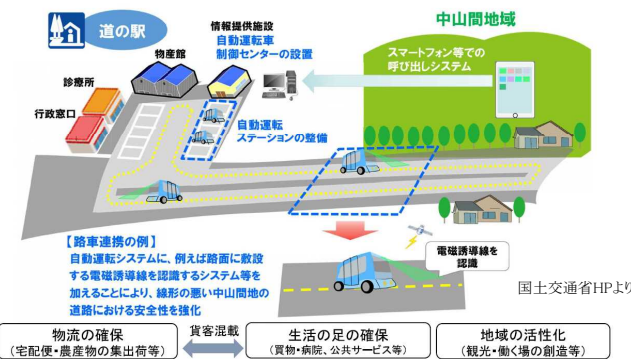


中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

④自動運転の実証実験

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの実証実験を行う予定。

今年7月、実証実験地域として長野県伊那市(道の駅「南アルプスむら長谷」)が選定された。



- 物流の確保 (宅配便・農産物の集出荷等)
- 貨客混載
- 生活の足の確保 (買物・病院、公共サービス等)
- 地域の活性化 (観光・働く場の創造等)

主な取り組みと整備効果等 II 「県土の強靭化を担うみちづくり」

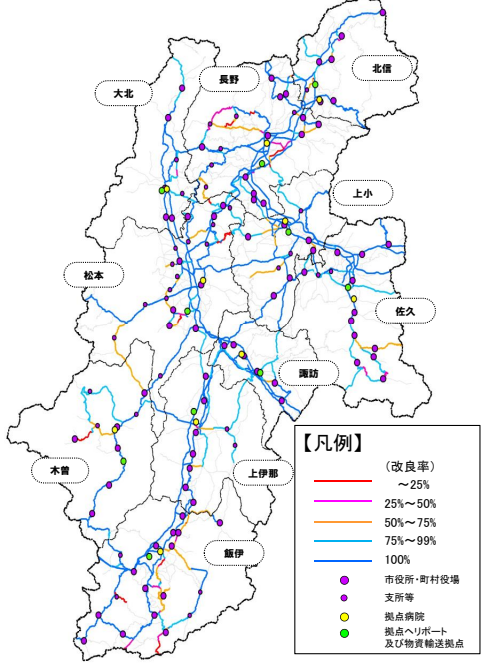
(1) 最悪の事態を念頭に置いた災害時の人や物資の円滑な輸送確保

- ▶ 災害による影響を最小限に抑える道路網等の整備
 - ・ 緊急輸送路の改築・耐震化・代替路整備等 → ① 緊急輸送路整備率
 - ・ 法面对策や除融雪等の豪雨や豪雪等への対策
- ▶ 道路網の脆弱性情報を事前提供する取組強化
 - ・ 緊急輸送路の整備状況の公表等 → ① 改良率による色分け図
- ▶ 広域災害に備えた関係機関(国・他県・市町村等)との連携強化 など
 - ・ 県外へつながる緊急輸送路の整備
 - ・ 危機管理部の受援計画との連携等

(2) 災害対応の迅速化を目指した道路機能や道路情報の強化

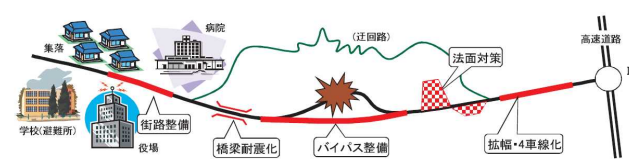
- ▶ 災害対応の拠点性を向上させる道の駅等の整備推進
 - ・ 道の駅の防災機能強化(参考:②)
- ▶ 災害時道路情報の迅速な提供強化 など
 - ・ UAV(無人航空機:ドローン等)を活用した災害情報の収集(参考:③)
 - ・ 国等と連携した「通れるマップ」の活用等(参考:④)

① 緊急輸送路の整備率 (H27年度現在)

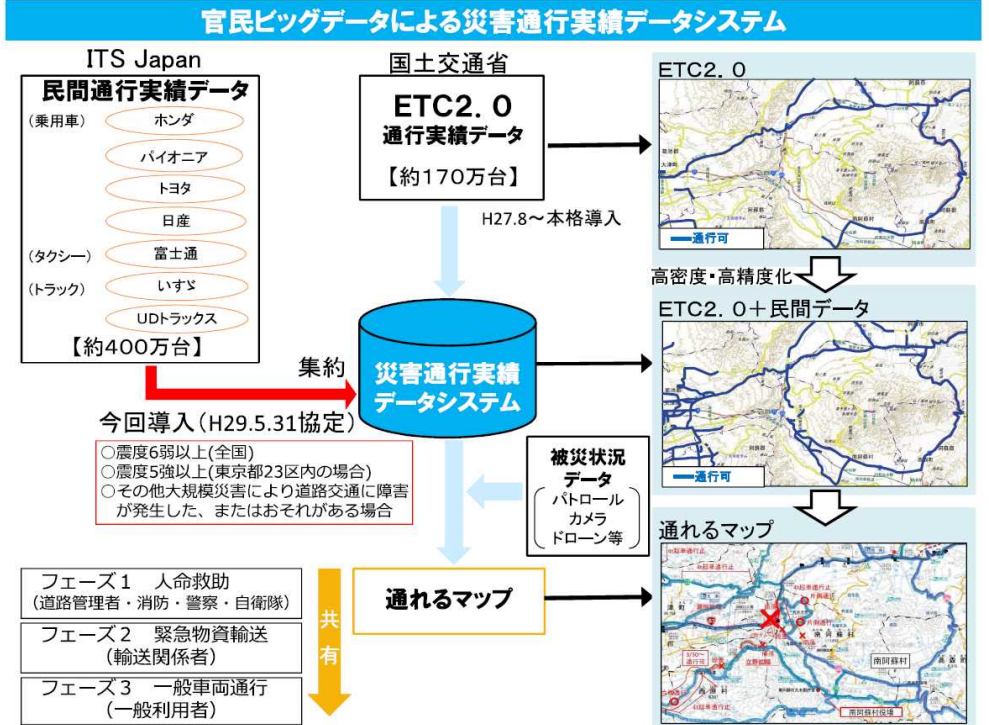


地域名	NEXCO管理	国管理	県管理	合計
佐久	100%	100%	90%	92%
上小	100%	100%	94%	95%
諏訪	100%	100%	93%	96%
上伊那	100%	-	90%	91%
飯伊	100%	100%	80%	86%
木曽	-	100%	79%	87%
松本	100%	100%	89%	93%
大北	-	100%	95%	95%
長野	100%	100%	79%	87%
北信	100%	-	92%	93%
合計	100%	100%	82%	91%

「H27全国道路・街路交通情勢調査」より
(幅員5.5m以上の延長割合として表示)

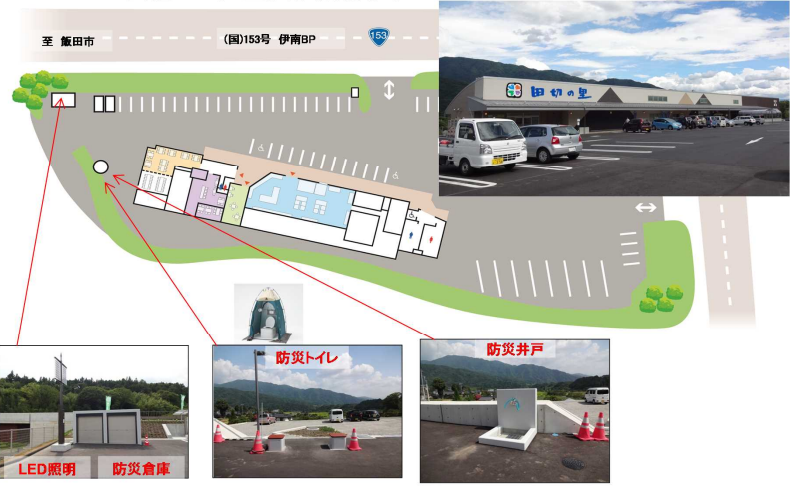


④ 災害時「通れるマップ」の運用概要 (H29.5~)

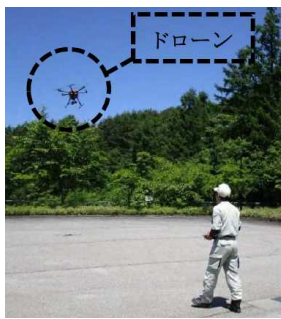


② 「道の駅」の防災機能強化

参考事例: 「道の駅」田切の里
 国道153号 上伊那郡飯島町



③ UAV*の活用 (*無人航空機: ドローン等)



災害現場の調査や、土庫施設の点検にドローンを活用

(1) 円滑性・多様性の強化による観光・産業拠点へのアクセス性向上

- ▶観光・産業拠点と高速交通網等の円滑性強化
 - ・高速交通網へのアクセス道路や、機能を補完する道路の整備 (開通情報等の積極的な広報含む)
 - ・スマートIC設置や複数路線による連続性確保 →①ICカバー率
 - ・道の駅の観光拠点としての活用拡大
- ▶自動車以外の観光客の利便性向上
 - ・バス路線の環境改善や主要駅アクセス道整備等
- ▶誰もが分かり易い道路案内表示整備推進
 - ・標識への観光地名表示、多言語表示、公共サインの検討等(参考:②)

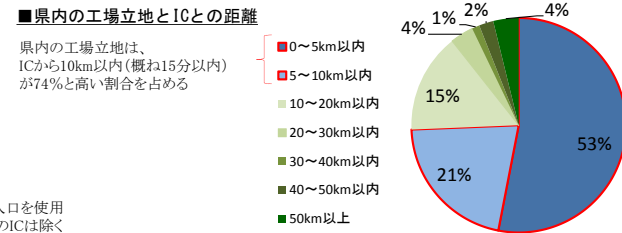
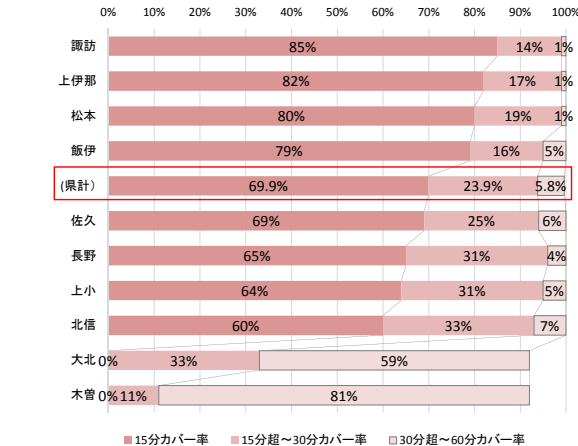
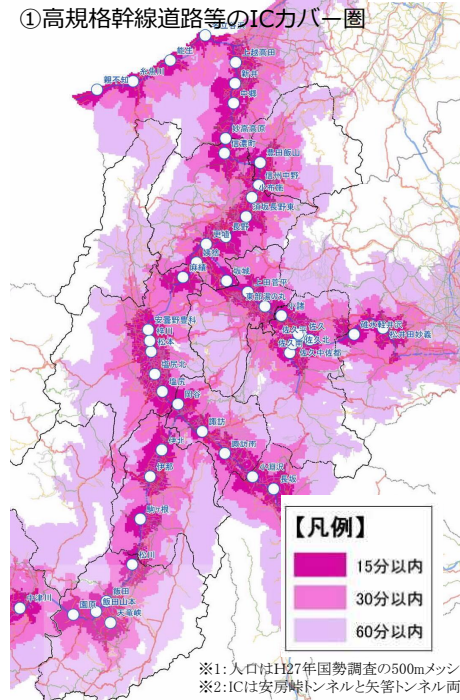
(2) 平常時の総交通量ではなく、観光・産業交通をふまえた安全性向上

- ▶観光・産業道路の安全性や信頼性の向上
 - ・観光や物流車両の渋滞・周遊データを活用した対策等
- ▶観光地を安心して歩ける道路環境整備推進
 - ・観光地の歩道グレードアッププラン

(3) 移動のためのみちづくりに加え、移動を楽しめるみちづくり

- ▶移動中の景観を楽しむための道路環境整備推進
 - ・日本風景街道や路線愛称等の活用(参考③)
 - ・眺望スポット整備や情報発信(参考④)
 - ・沿道美化等
- ▶自転車需要の増加に応じた道路環境整備推進
 - ・自転車道路網や駐輪場整備等(参考⑤)
 - ・路面表示や側溝グレーチングの細目化等
- ▶インフラツーリズム需要増加を活かした取組強化
 - ・「橋カード」(参考⑥)や長野県観光・交通案内アプリ「信州ナビ」等による情報発信
 - ・見学会充実

①高規格幹線道路等のICカバー圏



④木曾路の眺望景観整備方針 (H29.8)

めざす姿「山・川・街道の眺めが美しい木曾路」

(参考)眺望景観整備CGシミュレーション

【現状写真】(南木曾町三留野)
 国道19号から木曾川右岸方向の眺望。道路と河川の間の樹木が邪魔になり、木曾川の深谷と対岸が見通せない。



【CG (コンピュータグラフィックス) によるシミュレーション画像】
 道路と河川の間の樹木を伐採すれば木曾川の深谷及び対岸が見通せる。



⑤自転車道を活用した観光振興 (安曇野市)

歩道リメイク、市と連携した歩道拡幅とセミフラット化等



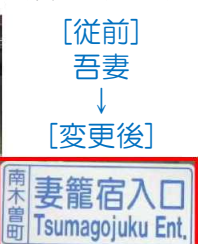
⑥「橋カード」の配付 (H29.9～)



②交差点標識の改善(H28.4)



(観光地名表示)



(多言語表示)



③路線愛称の活用

